

佳作

人間がぜつめじきぐしゅじゆにならぬいよつに

静岡県 静岡サレジオ小学校四年 岡崎 右京

ぼくは、タガメが好きです。なぜ好きかということ、かまが大きくて、ぼくの好きなカマキリみたいだからです。ふだんは、えものを待ったために水草にかくれ、えものがきたら左右のかまをすばやく動かし、えものの体をおさえて動かないようにしてからぼうのような口をえものにさして体えきをストローでのむようにしてえいようをすい取っています。そんな場面をテレビで見ても、かっこいいと思いました。

ぼくはそれをじっさいに見てみたくなったので、タガメをつかまえて、かってみたいと思いました。そこでインターネットや本を使っていろいろ調べてみました。すると、自然がへって昔は、田んぼでよく見られた水生昆虫でしたが、近年、田んぼで農薬が使われたりコンクリートのたんさができて、水の中に入れなくなるとそのまま死んでしまったりする

ことが分かりました。東京や神奈川ではぜつめじゆてしまったということも知りました。静岡にはタガメがいるかどうか調べてみたらはままつのおおぐにしていることが分かりました。そこではままつにタガメをつかまえに行きたいという話をしてみたら、お父さんは、

「ただでさえへってきているのにつかまえたらもつとへるし、せまい水そうでかうのことは死んでしまうことになるからかうのはかわいそうだ。」と言いました。それを聞いてかうことよりもふやすためにどんなことをしていけばいいかを調べることにしました。

タガメが自然にふえるようにしていくには、かんきようをよくすることが必要です。たとえば池を作ったり、さんらんするための木を池にさしたりする必要があります。そんな時に間ばつ材を使うことが出来ると思ひました。また水草もふやしてかくれてえものをつかまえることが出来るようにすることも大切です。タガメのてんてきであるガラスから身を守るためにタカのもけいを使ってガラスがこれないようになす。それにえさになるカエルや魚たちもすめるようなかんきようが大切です。そんなことを

調べていくと一番大切なのは、水ということが分かりました。

人間が水をよごしかんきようをあらしたのだから人間がせきにんをもち、かんきようをとのえていかなないとけないと思ひます。タガメは、ぜつめじきぐしゅになつています。ほかにもぜつめじきぐしゅになつています。人間が今、本気でがんばらないと人間もぜつめじきぐしゅになつてしまふと思ひます。